

西国分寺駅南口 西国分寺レガ

東京都
国分寺市

公団施行（0.77ha）平成2年11月工事完了

西国分寺駅周辺地区の総合的な住宅市街地整備における中核的事業 独特の駅前空間構成を提示

地区選定の主旨

JR中央線及び武蔵野線が交差する西国分寺駅の駅前周辺地域において、駅前広場・道路等の公共施設整備や公的住宅建設等を行った総合的な住宅市街地整備の中核的事業である。駅に面して駅前交通広場を整備する一般的な構成とは異なり、駅から2棟の再開発ビルの上に形成されたモールを経由して駅前広場に至るという独特の構成を持ち、駅前空間構成のあり方に一石を投じた。また建築的にも三角屋根をモチーフとしたデザインで統一され、独自性のある景観をつくっている。

再開発の目的と概要

当地区が位置する国分寺市は東京都心部から西方約30kmに位置し、武蔵国分寺が建立されるなど古くから開かれた地であった。昭和30年代中頃に入ると高度経済成長に伴い、毎年10%近い人口増加となり、当地区周辺でも都営住宅や社宅等の住宅建設が進展した。

当地区の北側に位置するJR西国分寺駅は国鉄中央線（当時）に加え、昭和48年には国鉄武蔵野線（当時）も開通して結節点となり、利便性が高まったものの、駅前には十分な広場や歩行者空間がなく、また、商業施設等の不足が懸念された。

こうした中で国分寺市は昭和54年に『西国分寺駅周辺整備基本構想』を策定し、駅周辺で11の事業（公団住宅整備、都営住宅建替え、駅前交通広場整備、市道やコミュニティ道路「史跡通り」の整備、いずみホール整備等）を実施することとし、当地区の再開発事業もこの11事業の一つとして行われることとなった。

本事業の狙いは、建物の不燃化促進や緊急車両通路の確保、

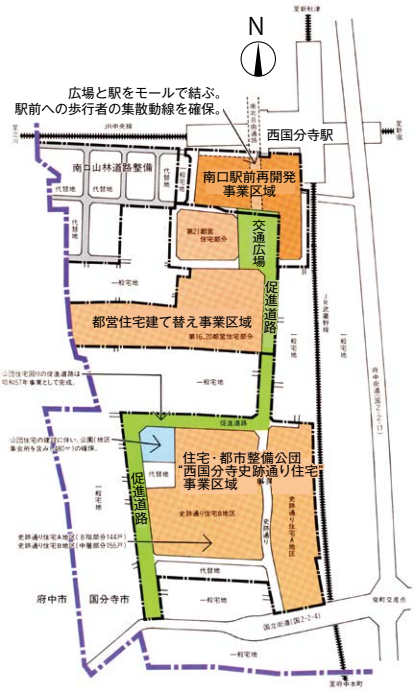
再開発事業周囲の住宅施設との統一のとれた街なみの形成等であるが、中でも重要なものは、当地区北側の駅と南側の交通広場との人の流れを結びつける役割を果たすことである。

具体的には、市が整備する駅前広場と駅との間に、本事業で商業施設を整備し、かつ、その施設中央部には吹き抜けのモール空間を設置することで快適な歩行者動線を作り出した。更に、三角屋根をモチーフとしたファサードとも相まって特徴的な駅前空間を形成している。その他にも、駅前広場に面して市のホール「いずみホール」や都営住宅が配置され、市、都、公団等による11事業が連携しながら駅前及び駅周辺の整備が進められた。

従前建物利用図



従前の西国分寺駅周辺



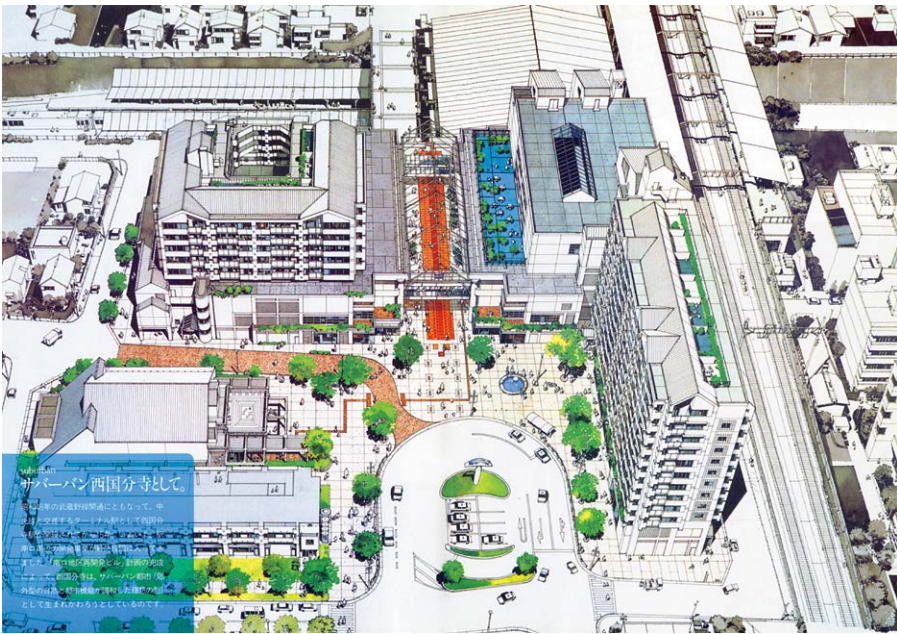
西国分寺駅南口地区整備の概要

事業の評価

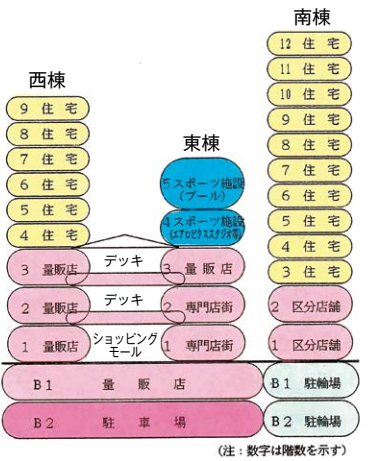
当地区は本事業を含めた一連の事業により、駅前広場や街路等が大幅に整備され、また、都営住宅の建替えや本事業での住宅整備（計約630戸）により住民も増加した。郊外の緑や自然が感じられる環境の中にも、再開発前にはなかった商業施設が導入されることで都会的な雰囲気も加わり、良好な居住環境を背後に持った大都市近郊部の駅前空間が形成された。

また、その後、武蔵野線を挟んだ西国分寺駅東口においても、大規模な空地を活用した住宅市街地総合整備事業が実施され、更に、その一部として再開発事業（都市再生機構施行）も実施され、駅周辺には研究機関、都立図書館、高等学校といった多様な機能が立地し、また人口も更に増加してゆく等、本事業の効果が周囲にも波及している。

鳥瞰図



完成写真



断面構成図

再開発後から現在までの状況

再開発事業において整備された商業施設である「西国分寺レガ」は、その立地の良さから現在も買い物客でにぎわっており、また、駅前広場も建物に囲まれた落ち着いた空間を形成している。また、11事業の一つである「いずみホール」も文化施設の核として今日も市民に親しまれ、文化、商業、居住機能が適度にミックスした駅前の良好な環境が維持されている。



施設建築物の現在の写真